

街の各所にある専用駐輪場(ポート)で自転車をいつでも借りたり返したりできるサービス「シェアサイクル」。コロナ禍の中、密を避けられるとして利用が広がっている。走行時に二酸化炭素(CO₂)を出さないため、地球温暖化の防止にも一役買いそうだ。記者が体験しながら使い勝手やメリットを探った。(河郷丈史)

国土交通省によると、シェアサイクルは昨年三月時点で、二百二十五の都市で導入されている。記者が働く名古屋市では「でらチャリ」「カリテコバイク」「チャリチャリ」の三つの民間のサービスがある。

このうちカリテコバイクは、名鉄協商が昨年五月から運営。百四十台の電動アシスト自転車が市内五十二カ所のポートに配置されている。利用料金は最初の三十分が税別で百五十円、以降は三十分百円。十一月の利用回数は五千六百回で、七月の二千回から三倍近くに増えた。担当の犬飼博久さん(四二)は「十二月は、さらにペースが上がっている。近くポートを二、三カ所増やしたい」と手応えを話す。

シェアサイクル コロナ禍で人気加速

CO₂削減へ快走



カリテコバイク専用アプリの地図にはポートの位置や利用可能な台数が表示される＝名古屋市内で



錠は電子化

利用するには会員登録が必要。ウェブサイトやアプリで氏名やメールアドレス、クレジットカード情報を入力するとIDが発行される。記者も早速登録し、JRや私鉄、地下鉄が乗り入れる市内の金山駅から中日新聞名古屋本社まで約五

分の街乗りを試してみた。アプリの地図にポートの位置が表示され、現在利用できる台数やバッテリー残量も分かる。使用する二十分前から予約も可能。駅近くのポートの自転車を予約すると、四桁のパスコードがメールで届いた。ポート

に行き、自転車の後輪部分の操作パネルでコードを入力すると、錠が外れた。ペダルをこいで大須商店街のスーパーに寄り、二百五十円の唐揚げ弁当を購入

後、取材用の資料を探しに市中心部・栄の大型書店へ。駐輪する際は手で鍵をかけ、パネルでコードを入力して外す。マナカなど交通系ICカードを登録しておけば、カードをパネルにかざすだけで解錠できる。

本社に最寄りの市役所近くのポートに着き、パネルの返却ボタンを押すと「返却完了」のメールが届いた。衛星利用測位システム(GPS)により、自転車がポートにある時しか返却できないようになっていた。車より小回りが利き、目的の地まで直線的に移動できるため、電車やバスを乗り継ぐより早く、お得な場合もあるだろう。一方で、都合の良い場所にポートや自転車がいないことも。ポートや台数が充実するほど利便性が高まると感じた。



活用のコツ

名古屋大大学院環境学研究所教授の加藤博和さん(五〇)は「電車やバスは運行本数が減らない限りCO₂が減らず、自転車に転換すると経営も苦しくなる。マイカーやバイクから自転車に乗り換える人が増えるといい」と指摘。電車やバスで、そこからは自転車を使うようにすれば、CO₂を効果的に減らせると説く。

シェアサイクルには、特定のポートに偏った自転車をトラックで運んで再配置する課題も。加藤さんは「CO₂が出て、コストも高い。集中した所から乗る場合は割引するなどの方法も考えられる」と提案。再生可能エネルギーの電力でトラックを動かしたり、自転車に充電したりすれば「CO₂がゼロに近づく」と話す。

環境

視点

マイカーから転換期待